21 世紀――資本主義の耐用年数がつきつつある時代

21世紀の世界は、人類の前途を危うくする深刻な矛盾がたくさんあります。

貧富の格差は開くばかりです。資本主義は、アジア・アフリカ・ラテンアメリカの人びとに、自立した経済発展の希望をもたらすことができませんでした。くりかえしの不況以上の深刻さで、地球環境の破壊が、資本主義にとって致命的な問題になりつつあります。

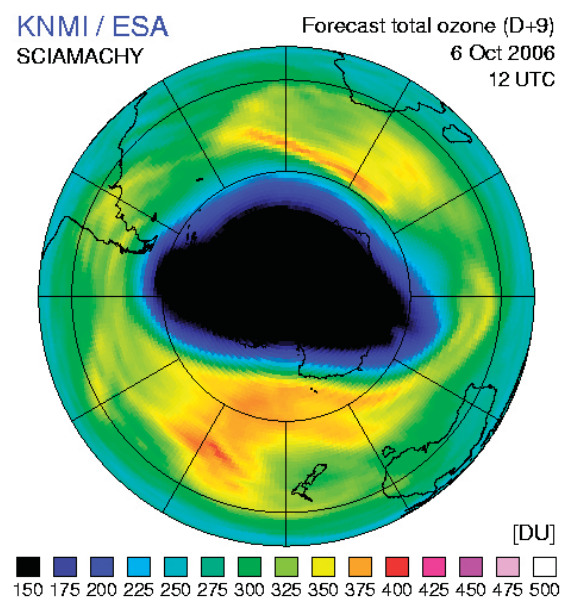
「大企業さえもうかれば、あとは野となれ山となれ」――すべて、利潤第一主義という資本主義のしくみが生みだしているものです。

地球環境問題専門家の警鐘――

「環境やエネルギーの問題のように、徐々に損なわれていく文明の基盤に対して人類全体が長期的な対応をしなくてはならないという状況において、市場はうまく機能するであろうか。そうは思えない。市場原理への予定調和的期待は、短期の視野で企業が対応する限り、成り立たないのではないだろうか」（小宮山宏＝現・東大総長『地球持続の技術』より）

すすむオゾン層の破壊

地球は、太陽の有害な紫外線から人類を守るオゾン層で覆われています。フロンガスの放出で、南極のオゾン層が壊され、オゾンホールが広がっています。



地球観測衛星エンビサットから観測された、南極上空のオゾンホール（中央の黒い部分）＝10月6日、KNMI/TEMIS提供

世界の最富裕層と最貧困層の格差

広がる一方の所得格差

1960年30倍

1999年 74倍

世界人口を5段階にわけ、一番上の富裕層と一番下の貧困層の収入格差を調べたもの

（国際労働機関調べ）

1日2ドル以下で生活